



練馬区立開進第一中学校

開進一中だより

平成30年度 第8号 平成30年12月20日発行

1年を振り返る

校長 古山真樹

平成30年も間もなく終わろうとしています。皆さんにとって今年はどんな1年でしたか。

先日、今年の漢字が「災」じんだいと発表されました。確かに今年も豪雪、豪雨、異常高温、大地震、大型台風など様々な自然災害が発生し甚大な被害がありました。災害への備えは欠かせませんね。

さてあなた自身にとって今年の漢字は?と言われたら何になりますか。先生は「穏」です。おん開進一中の穏やかな生徒たち、平穏な学校生活に起因します。さらに願望を込めて、平穏無事な毎日で、世界の揉め事が穏便、穏健に収まってほしいと願うからです。一人一人の心が穏やかであってほしいと願います。

また今年の重大ニュースもいろいろと報道されていますが、平昌五輪は今年だったのだなあと改めて驚かされました。暑くて長い夏のためか、もう遠い昔に感じます。世界の話題としては、米朝首脳会談が挙げられますが、世界平和に向かっていく一歩になってくれればと願うばかりです。また悲惨な事件や物騒な話題そして最近のあたり運転などからも、ますます人の心が「穏」であってほしいと思います。

明るい話題を探しましょう。そうすると、やはりスポーツの話題でしょうか。平昌五輪での羽生結弦選手を中心としたメダルラッシュ、テニスプレイヤー大坂なおみ選手の全米選手権制覇、野球の大谷翔平選手のメジャーリーグでの活躍と新人王受賞、つい最近のフィギアスケートでは16才の紀平梨花選手のグランプリファイナル優勝など、やはりスポーツの話題は世の中を明るくしてくれました。また、将棋界では藤井聰太四段が七段まで昇進し、100勝達成など、若い人たちの活躍はうれしく元気が出るものですね。

さて、あなた個人にとっての重大ニュースは?それぞれにうれしかったこと、楽しかったこと、また悔しかったことなどもあることでしょう。しっかりと1年間の自分の成長を振り返ってみましょう。

今月の一句

きつつき おちば
啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々

みずばらしうおうし
水原秋櫻子

シーンと静まりかえった情景が思い浮かぶでしょうか。この俳句のポイントは二つあります。まず「啄木鳥や」です。啄木鳥の特徴は、その鋭く長いくちばしで木の幹を叩く動作とその音にあります。リズミカルに響く音を感じてほしいのです。この一語で聴覚を表しています。そして「落葉をいそぐ」という擬人法が見事です。まるで木が意思をもって自らの葉を落としているかの表現、「いそぐ」ですから忙しなくどんどん葉を散らして冬支度を急いでいる様子です。「牧」は俳句獨得の省略で牧場の意味です。そうすると、静かな高原牧場の晩秋に心地よく鳴り響く啄木鳥の音の中、ひっそりとどんどん落ちていく木の葉、なんとも心にしみこんでくる晩秋の情景が見事に描かれた心洗われる俳句ですね。

さて、ここまでが普通の解釈ですが、私は、「落葉をいそぐ」という表現から年末の正月支度の慌ただしさをなぜか感じてしまいます。ですから敢えて12月の俳句にしました。純粹にこの情景の穏やかさに静かな気持ちになるのですが、一方でそういう勝手な連想をしてしまいます。入試では×ですが(言葉の読み取りから正当な読みをすることがまず基本ですから)、人それぞれに自由に想像を広げるところに文学の味わいがあるのではないかでしょうか。文学作品というものは、作者の思いでつくられていますが、読者の思いやこだわりがあっていいものです。それが文学の世界をどんどん広げてくれます。

尚、作者水原秋櫻子は女性ではありません。秋櫻子は俳句を作るときの雅号がごうとして付けたものです。本名は豊と言つて立派な医学博士です。

開進一中生の活躍

～12月の表彰から～

使いみち 知つて納める 消費税



中学生「税についての作文」

- ◆「練馬東納稅貯蓄組合連合会会長最優秀賞」
3年 村田 玲美
- ◆「練馬東納稅貯蓄組合連合会会長賞」
3年 伊久間 七海
3年 三浦 梨夏



東京都中学校

あなたのためのおべんとうコンクール

- ◆「優秀賞受賞」
1年 古崎 聖真・猪股 楓・鈴木 治仁

ジュニアリーダー
中級修了
「修了証授与」
2年 大村 理紗

練馬区環境作文コンクール

- ◆「佳作」
「捨てられる日本の食べ物」
2年 三浦 佳那子



練馬区ソフトテニス学年別大会

- ◆2年の部 優勝
「加藤 鴻之介・大矢 北斗」組
- ◆1年の部 2位
「川崎 翼・小澤 一輝」組
- ◆1年の部 3位
「屋代 咲也・二宮 由伎」組



12月8日(土)

避難拠点訓練を実施しました！

12月8日(土)に本校で避難拠点訓練を行いました。午前中から地域の避難拠点委員の方が「焼き出し」の準備を始め、午後からは本校生徒57名が訓練に参加しました。今回、この訓練に参加した生徒は、すべて自主的に参加を希望した生徒です。どの訓練にも意欲的に取り組んでいる姿が印象的でした。



写真(左) 消防署員の方に消火器の使い方を教わる生徒

写真(右) 煙ハウスに入り、煙の怖さを実際に体験する生徒